

社会貢献シーズ集

SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY SEEDS OF SOCIAL CONTRIBUTION

2023



札幌学院大学社会貢献シーズ集

札幌学院大学のシーズ(種:研究、技術、教育、社会活動等)を広く社会に公開することで、大学の教育研究活動の質的向上を期すとともに社会貢献につなげることを目的としています。SDGs(Sustainable Development Goals:「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(2015年9月の国連総会で採択)に記載された、2030年までに達成すべき17の地球規模の持続可能な開発目標)から検索できるようにしています。

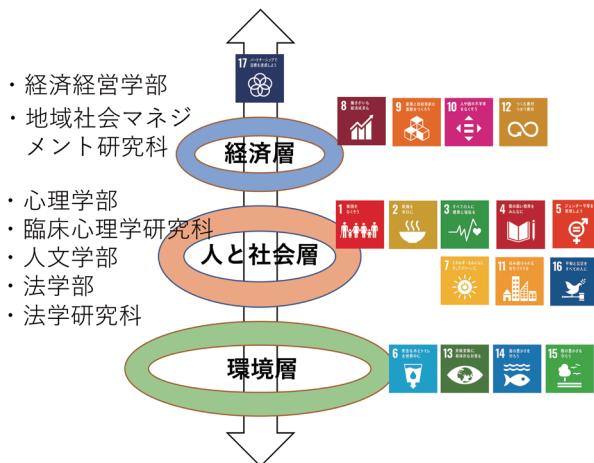
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



札幌学院大学社会貢献シーズ集の公開にあたって



札幌学院大学の前身である札幌文科専門学院は、戦禍が残る1946年、「学の自由」、「独創的研鑽」、「個性の尊重」を建学精神に掲げ、戦争によって学びを制限された若者たちが自由な知の探求のために設立しました。そして建学精神を支える大学の理念が「自律する力を育てる」、「人権を尊重する大学」、「地域と共生する大学」、「構成員で創りあげる大学」です。札幌学院大学が理念とする人権、共生、協働は、全世界で取り組んでいるSDGs(持続可能な開発目標)に通じるもので、個人を大切にすると共に社会価値を重視して人づくりに取り組んで参りました。その結果、札幌学院大学はSDGsの「環境層」を除き、下図のような4学部7学科3研究科を有する、文系総合大学へ発展しました。



こうした大学の見学の精神と理念から、持続可能な社会づくりに貢献する、という新たな使命の下「社会貢献シーズ集」を発刊しました。私たち大学の教育者・研究者がそれぞれの専門を活かし、持続可能な、より良い社会と幸福な人生のために何ができるのか、という視点で、教育研究内容と活動実績を示し、「社会貢献シーズ集」にまとめています。

私たちは技術革新等によって大きな恩恵を受ける一方、発展した社会から生じた多様な歪みに直面しています。2022年にはロシアがウクライナへ軍事侵攻をし、尊い命が失われ、戦禍による環境破壊が行なわれています。こうした時代に必要とされるのは社会課題に取り組み、解決していく「志(こころざし)」、「知恵」、「力」です。札幌学院大学が「志」、「知恵」、「力」を社会へ還元し、共有するためにまとめた「社会貢献シーズ集」を、高校等の教育機関、行政、企業、非営利組織の皆様にご活用いただければ幸いです。

2023年3月

札幌学院大学 学 長 河西 邦人

CONTENTS

| | |
|---|------------|
| 札幌学院大学社会貢献シリーズ集の公開にあたって | 01P |
| 札幌学院大学社会貢献シリーズ集 目 次 | 02P |
| 子どもにやさしい街づくり | 大澤 真平 03P |
| SDGsを志向した非営利活動の展開 | 石田 潔 04P |
| 地域食堂かば亭(NPO法人つなぐ) | 井上 寿枝 05P |
| 学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み | ト部 洋子 06P |
| 前頭葉の機能改善から考える人々の健康 | 大宮 秀淑 07P |
| 心理学的アプローチによるダイバーシティ社会の構築 | 齊藤 美香 08P |
| 自閉スペクトラム症と地域支援 | 山本 彩 09P |
| 地域教育の活性化による基礎教育の質的保障の拡充 | 井上 大樹 10P |
| 当事者が主体となる「学び」の場づくり | 河合 直樹 11P |
| 東南アジアの青年における描画表現 | 佐野 友泰 12P |
| 民族の言語を記録し、次世代に継承する試み | 白石 英才 13P |
| 産学官金連携による地域創生の実現 | 末富 弘 14P |
| ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探求する | 横山 登志子 15P |
| 地域企業の顧客ロイヤルティ構築及び発展に向けて | 矢川 美恵子 16P |
| アイヌ語を探究する | 岸本 宜久 17P |
| ダイバーシティ・インクルージョン時代の人材養成と国家再生 | 田中 敦士 18P |
| 地域文化遺産の保存と活用 | 臼杵 勲 19P |
| 「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化 | 大塚 宜明 20P |
| 地域活性化とアイドルの活用 | 神谷 章生 21P |
| ソーシャルビジネスによる地域創生 | 河西 邦人 22P |
| 現代社会におけるエイジングとケアの可能性 | 新田 雅子 23P |
| 持続可能な地域創生のための「地域経営学」の学術的理論構築 | 藤永 弘 24P |
| ソフトウェア工学と地域づくり | 渡邊 慎哉 25P |
| 持続可能な生産と消費 | 橋長 真紀子 26P |
| Team Power Based on the Upper Echelons Theory | 黄 昕 27P |
| 札幌学院大学社会貢献シリーズ集 研究者名索引 | 28P |

子どもにやさしい街づくり

「子どもの権利」を基盤とした社会の持続性の実現へ



准教授
大澤 真平
Ohsawa Shinpei
博士(教育学)
人文学部 人間科学科

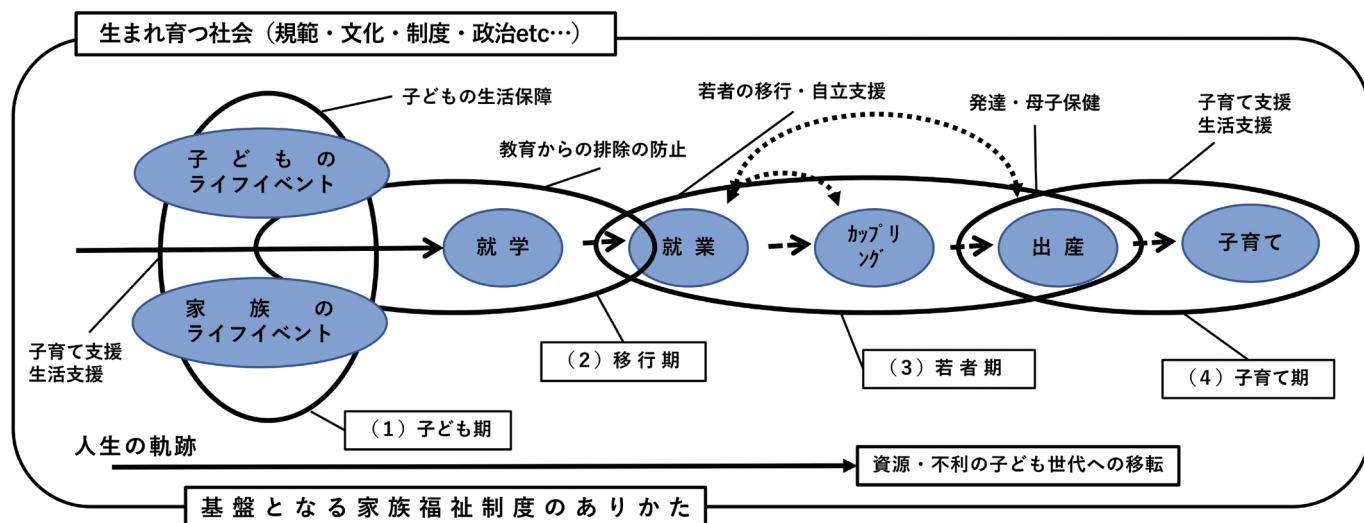
子どもの貧困問題の緩和・解決を研究テーマにしています。子育てや教育現場での子ども調査や自治体の生活実態調査を通して、子どもが安心・安全に育つために必要な仕組みや制度、子育て支援のあり方について提言を行っています。



キーワード

子どもの貧困、児童福祉、子育て支援、
子ども虐待、子どもの権利、いじめ

シーズ(研究)紹介



実績と今後の活動予定

- 2014年～2022年 北海道いじめ調査委員会委員
2017年～2018年 札幌市子どもの貧困対策計画」に係わる
子ども・子育て会議
実態調査検討ワーキンググループ委員
2017年～現在 札幌市児童会館等指定管理者
選定委員会委員
2019年～現在 江別市社会福祉審議会委員
2020年～現在 北海道大学大学院教育学研究院付属
子ども発達臨床研究センター研究員

地域や産業界、自治体に向けて

子どもの貧困研究を専門にしています。「子どもの貧困対策推進法」が成立したことを受け、これまで北海道、札幌市、旭川市等、道内の自治体のみなさまと協力して子ども・若者の生活実態調査を実施してきました。児童虐待問題とも合わせて、地域の子育て支援や子ども・若者の生活支援について、何をどのように進めしていく必要があるのか、地域の実態に合わせた「子どもにやさしい街づくり」を考えていきたいと思っています。

SDGsを志向した非営利活動の展開

ソーシャルワークに根ざしたまちづくり

私の本業は病院に勤務するソーシャルワーカーです。ソーシャルワーカーとは、簡単にいうと社会のなかで弱い立場にある方々が、自分の望む健康で文化的な生活を送ることができるようお手伝いをする仕事です。私はこの仕事を通じて、社会のなかで理不尽にさらされる多くの方々と出会ってきました。病気を理由に会社をクビになった人…病気や怪我が原因で障害を負い、高い能力があるのに不当な賃金で雇用されている人…体中が傷だらけなのに助けを求められない子ども…このような立場にあることは、果たして個人の責任なのでしょうか?私はこのような状況を生み出す社会の構造に問題があると考えています。ソーシャルワーカーはその職業が有する専門的な知識と技術で、社会のなかで様々な問題を抱えて悩み苦しんでいる方々の問題解決のお手伝いをするのが役割ですが、それとともに、その価値をまちづくりにも役立て、誰もが安心して暮らし続けることのできるまちを形作っていく必要があると考えています。



医療ソーシャルワーカー

石田 潔

ISHIDA Kiyoshi

修士(地域社会マネジメント学、

社会福祉学)

地域社会マネジメント研究科

修了生

社会連携センター協力員



キーワード

ソーシャルワーク、まちづくり、SDGs、
非営利活動、人材育成、フィランソロ
ピー

シーズ(研究)紹介

ソーシャルワークを基盤としたまちづくりにおいて重要なのは倫理観です。まちづくりにおける倫理観というのは少しあまり詳しくないので、簡単に説明すると、一つはまちとそこに住まう人々が主役であるという大前提に立つこと、二つにはまちづくりが私利私欲に結びつかないこと、三つ目には誰かを傷つけることがあってはならないこと、です。

これらの倫理観に基づいてまちづくりを進めるための非営利活動に取り組んでいるわけですが、では非営利活動とは何なのでしょうか?

対となる概念は営利活動です。営利活動とは社会に優れたモノやサービスを提供することにより、その対価を受けて利潤を上げていく活動を指しますが、非営利活動においても、社会から優れたモノやサービスを要求されます。非営利活動が営利活動と異なる点は、提供するモノやサービスが社会に有益なものであり、その活動を通して得た財を個人へ分配するのではなく、その後の活動へと充分に使い切っていくところにあります。公共の利益にかなう活動であるという側面を有している故、高い倫理観を求められるのです。

いくら安価で優れたモノやサービスでも、それを作る人々が不適に安い賃金で働き苦しんでいるような、誰かを犠牲にしなければ成り立たない社会や経済の仕組みでは、持続可能な社会やまちづくりの実現には程

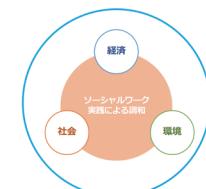
遠いのです。

そしてもうひとつ、持続可能なまちづくりを目指した非営利活動を展開するためには「経済」「環境」「社会」のバランスを保った開発が必要であると考える、すなわち「サステナブル・デベロップメント」の概念が重要なとなります。

利潤を優先するあまり、環境が汚染され公害病のような悲劇を生んでしまうことになっては将来にわたって長く持続した、安心して暮らせるまちの実現には程遠いのです。このように「経済」「環境」「社会」のバランスを保つことが非常に重要なのです。

その答えが、持続可能な社会を実現しようとするSDGsの17目標にあると考え、SDGsを目指したまちづくりの非営利活動について主体的に研究・実践に取り組んでいます。

ソーシャルワークの価値と倫理に基づくまちづくりの展開



SDGsに定める17の目標と169のターゲット



活動の指針・行動基準

地域や産業界、自治体に向けて

私たちは、ソーシャルワーカーはもとより、医療系国家資格を有した専門職や、企業人事のエキスパート等の有志で構成された一般社団法人で活動しており、上記に紹介させて頂いた理念に基づいた実践と研究に取り組んでいます。まちづくりは地域住民が主役ですが、その地域で様々な営みを開拓する企業や団体等の多様なステークホルダーの参画が重要です。私たちの実践は、まちづくりに向けた様々なヒト・モノ・コトを結び付け、持続可能なまちづくりのお手伝いをするためのものです。そのためのノウハウを実践・調査・研究を循環させながら蓄積し続けています。

私たちの活動がお役に立てることがありましたら、お気軽にお声かけ下さい。ともに持続可能なまちづくりを志向して、手を携えて活動に取り組みます。

実績と今後の活動予定

2019年に設立した一般社団法人を拠点に、自治体が取り組むまちづくりに関する委託事業を受託し、社会資源の調査や活動の評価に取り組んでおり(2019年度は小樽市地域包括ビジョン協議会委託による、在宅医療介護に関わる社会資源調査及び在宅医療介護連携に関わる事業の評価に関する調査研究)、そこで得られた知見を活かして、更なるまちづくりへの展望を提案し続けています。

次年度では、新型コロナウイルス感染症の流行により実施を見合わせていた、まちづくりのリーダーを養成する人材育成事業を展開します。

個人においては医療ソーシャルワーカーの立場で、保健・医療・介護・福祉やまちづくりに関わる各種の会議体等に積極的に参加しています。

- 【公職】
- 一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会
社会活動担当業務執行理事(2021年~)
 - 小樽地域包括ビジョン協議会 委員(2016年~)
 - 小樽市地域福祉計画推進委員会 委員(2021年~)
 - 一般社団法人 STUDIO CUBE 業務執行理事

地域食堂かば亭(NPO法人つなぐ)



総務課職員として福利厚生等の業務を担当していますが、居住地域(札幌市豊平区東月寒)で仲間とともにNPO法人(名称:NPO法人つなぐ)を設立し、障がい者福祉や地域交流事業等を行っています。2017年から新たな事業として子どもたちのための地域食堂(名称:地域食堂かば亭)を開始し、代表を務めています。特別有給休暇(ボランティア活動)により毎月1回の活動を継続しています。社会福祉士です(通信教育で資格取得)

職員
井上 寿枝
INOUE Toshie
学士(文学)



キーワード

地域食堂、子ども食堂、子ども、居場所、地域づくり

シーズ(研究)紹介

核家族化や地域のつながりの希薄化なかで、困難を抱える親子を支援するために、子どもがひとりで来てもよく、そして誰が来てもよいところとして地域食堂を開催しています。安価で栄養のあるおいしい食事と団らんの場や遊びの場を提供しながら、経済的困難を抱える家庭だけではなく、共働きなどで孤食にならがちな子ども、学校や家庭に居づらさを感じる子どもとその親たちへのサポートにつなげます。地域にボランティア協力を呼びかけ、子どもたちを支え、親たちの子育てを支える地域づくりをするなかで、大人たちもつながり、すべての人々が自然とけあって豊かに生活できる地域になること目指しています。



実績と今後の活動予定

毎回子どもや保護者を中心に100名程度の参加者がおり、一緒にご飯を食べたり、遊んだりして楽しく過ごしていただいています。子どもからは「やすくておいしい」「あんしんする」、また保護者からは「子どもだけで来ても気軽に食べられる。家で1人で食べるよりも、子どもも大人もいてくれてよい」などの声をいただいており、今後も継続して開催します。よりよい活動を行うため、「こども食堂北海道ネットワーク」「つきさっぷプロジェクト」等のネットワークや関連のシンポジウム等に参加し、情報交換や学習・交流を行っています。

地域や産業界、自治体に向けて

学校を始めとする多くの関係機関・団体や住民、東月寒地区町内会連合会、企業、農協、商店街やスーパー、飲食店等からも様々なご寄付やご支援・ご協力をいただき感謝しています。今後もつながりを広げ、深めたいと考えます。企業のCSR活動や助成事業により、参加者の負担を軽減した食堂運営が可能となっています。札幌市の後援を受け、「さばーとほっと基金」による助成を受けていますが、2020年度から市の予算による補助制度が開始されるなど、子ども食堂への支援が行われるようになっており、今後も連携を図りつつ協力しながら取り組みたいと考えています。

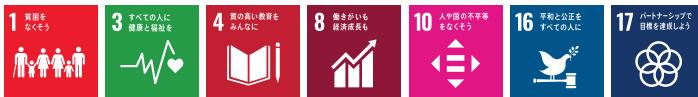
学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み

セラピードッグとふれ合い、心と心をつなぐ

本学の学生相談室のユニークな活動のひとつとして、多くの学生が学生相談室を利用するきっかけづくりを目的として、2017年から月に1回、昼休みに「セラピードッグのふれ合い」を開催しています。毎回、沢山の学生がセラピードッグの「エース」とふれ合い、温かさや癒しを感じながら語り、コミュニケーションの場にもなっていましたが、コロナ禍の影響で、開催できませんでした。そこで、「見て癒される」動画のセラピードッグを本学のHPでアップすることになり、多くの学生や教職員から心温まる言葉を頂いております。



専門職員
上部 洋子
URABE Yoko
修士(臨床心理)



キーワード
セラピードッグ、学生相談室、カウンセラー

シーズ(研究)紹介

～セラピードッグ導入について～

学生相談室の利用について、増えてきているものの、学業や対人関係で悩み、誰にも相談できずに、長期欠席している学生が少なくないです。そこで、学生相談室を気軽に利用しやすいように、セラピードックとふれ合う機会を考えました。

セラピードッグについて、海外ではアメリカの大学のキャンパスでセラピードッグのふれ合いが紹介されるようになりました。本学の学生相談室で「セラピードッグ」の導入は国内では初めての試みです。

毎回、100人以上の学生がセラピードッグにふれ合いに来ています。学生の呼びかけにエースは学生を見て、大きく尻尾を振って大喜びです。エースと触れ合いながら「温かい」「ぬくもりを感じる」「可愛い」「癒される」等、セラピードッグから伝わってくる体温や感触を感じているようです。また、1人暮らしの学生は実家を思い出し、その際、飼っていた犬のこと、大切なペットが他界し悲しさや懐かしさを伝えたこと、友人やバイト先の人間関係で悩んでいること、就活のこと、将来、心配なこと等、自然に語りあうなか、学生相談室につながる

こともあります。さらに留学生や教職員にとっても触れ合う機会になりました。今回、動画を公開することで、セラピードッグのエースを画像で視ながら、「エースが元気で良かった」「コロナが収束したら会いたい」「見ていても癒される」等、画像を通して温かさやを感じたようです。



札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.1
YouTube・1,048回視聴(2020/04/28公開)

札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.2
YouTube・1,099回視聴(2020/11/12公開)



札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.3
YouTube・495回視聴(2021/06/13公開)



札幌学院大学 学生相談室 セラピードッグ エース Vol.4
YouTube・517回視聴(2021/11/05公開)

札幌学院大学学生相談室
セラピードッグ「エース」の動画

札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エースVol.1 <https://www.youtube.com/watch?v=QjrYvIPhs0c&t=4s>
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エースVol.2 https://www.youtube.com/watch?v=kR3xTWpQE_c
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エースVol.3 https://www.youtube.com/watch?v=T_tjwnFK_QY
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エースVol.4 https://www.youtube.com/watch?v=_nvS5sRkryI

実績と今後の活動予定

今後も本学の「セラピードッグ」のふれ合いは開催し、動画も制作する予定です。昨今、コミュニケーションの苦手な学生多く、集団生活に馴染めず、長期欠席から休退学する学生も少なくないです。また、コロナ禍で人の交流が制限されるなか、安らぎのひとときを過ごしてもらうことが必要です。多くの留学生も母国に自由に帰国できず、寂しい思いをされている学生も少なくありません。今後もセラピードッグを通して、温かさや温もりを感じ、学生相談室の利用にお役立ちできればと思います。

地域や産業界、自治体に向けて

本学の大学祭に北海道ボランティアドッグの会の多くのセラピードッグとボランティアに協力して頂いています。その際、本学の学生ボランティアも参加し「セラピードッグ」のふれ合いを紹介し、地域と交流しながら社会貢献の場にもなっています。

世の中が複雑になり、老若男女の多くが悩みを抱えています。中には自分では対処しきれないほどのストレスを抱えている人もいると思います。そんな時、セラピードッグとふれ合い、伝わってくる温かさや癒しを感じて頂ければと思います。

前頭葉の機能改善から考える人々の健康

-臨床×研究=∞の未来-



教授
大宮 秀淑

Omiya Hidetoshi
博士(保健科学)
心理学部 臨床心理学科

効果的な脳トレとはどのようなものなのかについて研究し、前頭葉に機能不全が認められる方の注意力や記憶力の改善を通して、多くの人々の健康に寄与することを目指しています。臨床現場と研究活動が協働することで社会の未来がより一層開かれていくことを目的としています。



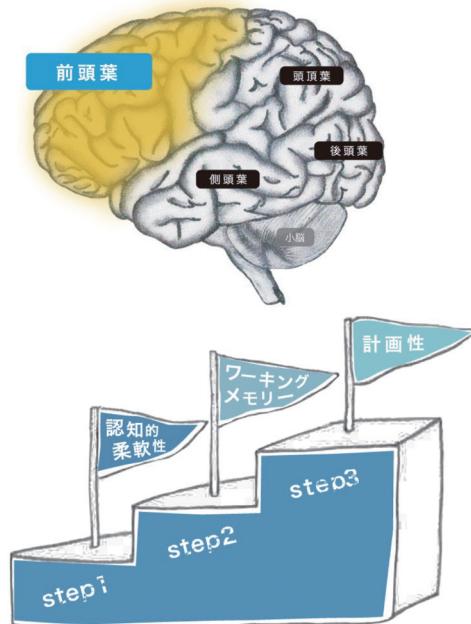
(キーワード)

認知機能、記憶力、前頭葉、精神疾患、
実行機能、脳トレ

シーズ(研究)紹介

前頭葉の機能不全がある方の認知機能(注意力・記憶力)と生活の質の改善を目指しています。

見ている = 見えている?



実績と今後の活動予定

- 2011年～現在 福島大学大学院臨床心理同門会会長
- 2014年～現在 北海道児童青年精神保健学会理事
- 2016年～現在 北海道大学大学院保健科学研究院客員研究員
- 2019年～現在 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会協力委員
(北海道・東北地区)
- 2020年～現在 江別市いじめ防止対策審議会委員
- 2021年～現在 一般社団法人北海道臨床心理士会
常務理事兼研修部局長

地域や産業界、自治体に向けて

注意力や記憶力、計画性に代表される人間の認知機能は主に脳の司令塔である前頭葉が司っている。前頭葉はストレスや加齢など様々な要因によって低下することが指摘されており、前頭葉が機能を改善することは人々の生活の質向上させるために重要なことである。今後さらに研究を発展させ、医療機関のみならず、教育機関においても効果が実証されている脳トレを普及していくことを検討している。

心理学的アプローチによる ダイバーシティ社会の構築

心理的バリアをなくし、支え合う社会づくりに向けて



教授
斎藤 美香

Saito Mika
修士(文学)
心理学部 臨床心理学科

病院臨床の場で乳幼児から高齢者までの心理支援に携わり、大学の学生相談室で大学生・保護者・教職員のカウンセリングやメンタルヘルス啓発、居場所支援などコミュニティを活用した心理支援や障害学生支援の実践研究を行っています。



キーワード

心理的バリア、ダイバーシティ、共生、
心理教育、ボーダーレス、障害

シーズ(研究)紹介

私はこれまで精神的な悩みを抱えている方、障害をもつ方からの相談に携わってきました。支援が必要なのに、援助要請行動に踏み切れない方は多く、その要因と対策の研究をしてきました。個人の中にある精神疾患や障害に対しての「心理的バリア」や社会のバリアがその要因に根深く関与していることがわかりました。日本もダイバーシティ社会(多様性共生社会)に転換されつつありますが、人の

心に潜む心理的バリアを解消する手立てがないと、眞の共生社会として成熟していくかと考えます。

最近は特に中高生、大学生における、精神疾患や障害に対する心理的バリアを解消するための心理教育プログラムについて研究と実践を行っています。

研究・実践テーマ

心理的バリアの
解消

- スティグマ（偏見）解消
- メンタルヘルスリテラシー教育

お互いさまの
共生感

- 援助者—被援助者関係ではないボーダーレスな共生の居場所づくり

持ち味を生かす
協働

- 自己理解、セルフアドボカシーの促進
- 強味を生かしたワークシェアリング

心理教育プログラム

お互いさま
の共生感

心理的バリア
の解消

持ち味を生かす
協働

多様性
共生社会

実績と今後の活動予定

国公立・私立大学において、メンタルヘルスや障害学生支援に関する研修会講師の経験を重ねています。2017-2019年 日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)「援助要請行動回避型学生へのメンタルヘルス教育プログラムの開発」研究代表者として、大学生向けの援助要請行動促進プログラムを作成しました。特に高校においては、2022年度より保健体育の授業に「精神疾患の予防と回復」を教えることになりますので、大学生だけではなく、高校生などの学生に対して心理的バリアを緩和するためのプログラムを提供いたします。

地域や産業界、自治体に向けて

メンタルヘルスへの心理的バリアを減らすことは企業や一般市民にとっても喫緊の課題です。今後は、地域・企業・自治体でのメンタルヘルス啓発活動も進めていきます。

自閉スペクトラム症と地域支援

～二次的な問題への予防と介入、家族支援、多職種連携～



教授
山本 彩
YAMAMOTO Aya
博士(教育学)
心理学部 臨床心理学科

「世界はあらゆる頭脳を必要としている」は、自身も自閉症(現在の自閉スペクトラム症)の診断を受けた動物学者テンプル・グランディンさんの言葉です。多様な頭脳を持つ多様な人々が、地域で互いに助け合い支え合う地域づくりを目指して心理的・福祉的実践と研究を重ねてきました。そのためには保健、医療、福祉、教育、司法、労働などの垣根を超えた連携が必要不可欠です。そうした方法論についても実践と研究を重ねています。



キーワード

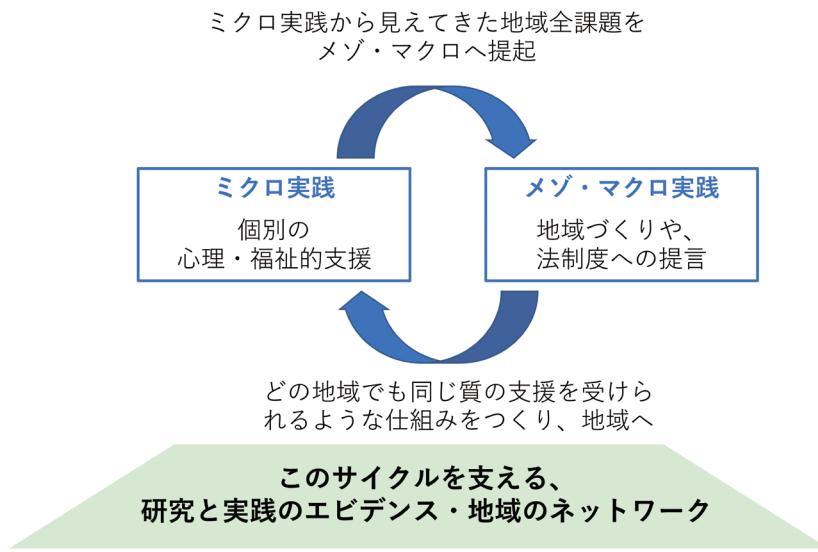
自閉スペクトラム症、家族支援、社会的ひきこもり、
発達支援、地域支援、司法福祉連携

シーズ(研究)紹介

自閉スペクトラム症がある子どもを持つ親は、どのように我が子を育てたらよいか悩むことが多いと言われています。乳幼児期の地域支援ではそうした家族への支援と特性をもつ子どもへの発達支援を並行して行うことが大切です。学齢期になると教育のための支援が必要です。思春期・青年期以降は地域生活を親から自立して行うための支援とそれらがうまくいかなくなったときの回復を手伝う支援が必要となります。

以上のような個別具体的の支援を行いながら、並行して地域全体が多様性を認めるよう啓発活動を行うことや、支援方法に悩む機関を側面的に支援することも大切です。これら全体の活動を支え継続性や公平性を担保するのが法律です。

個別具体的の支援(ミクロ)・地域づくり(メゾ)・法律などの国全体の制度(マクロ)を循環させるとともに、研究と実践のエビデンスとネットワークでこれらの活動を支えます。



実績と今後の活動予定

- 2015~2019年 厚生労働省思春期精神保健研修「ひきこもり対策研修」
講師
- 2018~2019年 厚生労働省「発達障害者地域支援推進事業実地研修家族介入バージョン」講師
- 2016~2019年 札幌市自立支援協議会委員
- 2017~2019年 北海道自立支援協議会人材育成部会委員等
- 2018年から A/CRA/FT ASIA事務局

地域や産業界、自治体に向けて

タフな地域、タフな企業は、多様性を認めていることに特徴があります。また組織の中の一員が何らかの理由により一度退いたり失敗したりしても、回復を見守り支援する地域や企業は、地域や企業自体も一緒に成長します。そのような方法と一緒にまずはのぞいてみませんか？

地域教育の活性化による基礎教育の質的保障の拡充

住民参画でつくる子どもにやさしい地域づくり



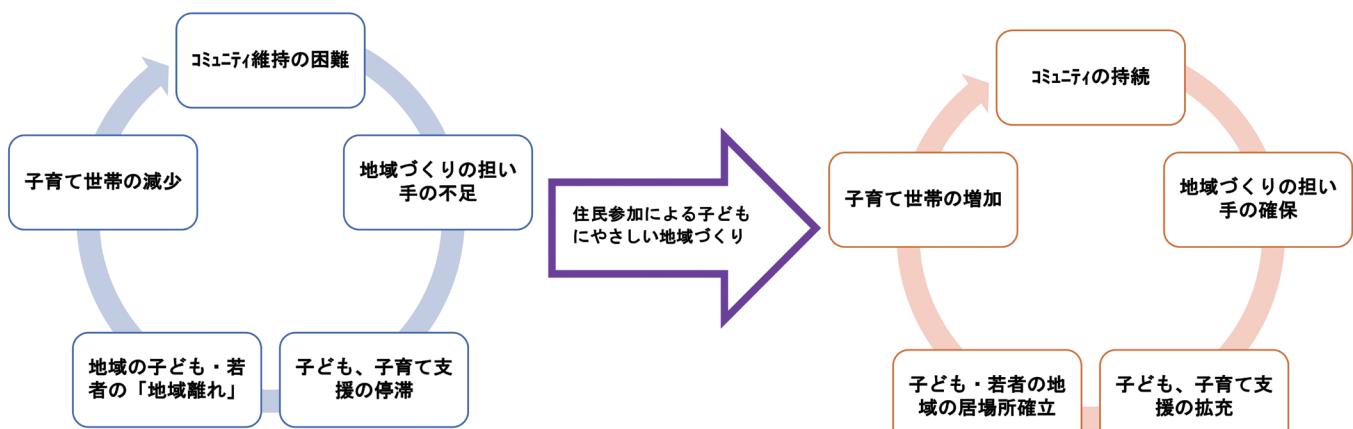
もともとは若者の自立(広い意味で)と教育実践(高校、大学・専門学校、社会教育)の研究をしていました。実は、若者の現状は小学校あるいはそれ以前の教育の結果ともいえるのです。現在は、子どもの成長を長期で見通せる小学校教員・保育士の養成、地方創生で効果的な子ども・子育て支援について、それぞれの取り組みを「市民(主権者)の学び」の視点で分析する研究を主としています。



キーワード

地方創生、社会教育、子どもの権利、子どもの貧困、青少年育成、子ども・若者支援

シーズ(研究)紹介



実績と今後の活動予定

2014年12月 - 2015年10月 恵庭市 総合計画審議会教育福祉専門部会
部会長
2015年6月 - 2015年9月 恵庭市 地方創生懇話会委員
2015年5月 - 現在 北海道私立専修学校各種学校連合会 教員能力認定委員
2016年5月 - 現在 札幌市生涯学習財団 さっぽろ市民カレッジ講座企画委員
2017年1月 - 現在 社会福祉法人未来の会 理事
2016年5月 - 現在 恵庭市教育委員会 社会教育委員
2016年7月 - 現在 江別市教育委員会 社会教育委員

主な著書(いずれも共著)

『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難』、旬報社、2014年
(ISBN: 9784845113460)
『教職概論:「包容的で質の高い教育」のために: SDGsと学校教育』、学文社、
2019年9月 (ISBN: 9784762029158)

今後の主な活動予定

科学研究費助成事業(基盤研究(B))「子ども・若者支援における専門性の構築
—「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて—」(2018~2021年度)の共同研究者として、子ども・若者支援の専門資格化の研究を継続

地域や産業界、自治体に向けて

地方創生総合戦略で人口減少を食い止めるための効果的な施策が地方自治体に求められるようになりました。このことで様々な子ども若者、子育て家庭への支援策の拡充が展開されております。さらに効果的なものにするには地域住民の協力による子ども・若者への居場所・出番づくりが不可欠です。地域の創意工夫による次世代育成が地域づくりの担い手確保という循環につながるよう、微力ながら伴走させていただければ幸いです。

当事者が主体となる「学び」の場づくり

教育・支援における「書道」の可能性



よく「人生は日々勉強」といいます。私たちは、絶えず「学び」の文脈のなかにいるのです。とはいえ、すべての「学び」が望ましいものとは限りません。特に、学校教育や社会的支援のような制度化された環境では、与え手の想定していないかったネガティブな「学び」が、皮肉にも受け手に学習されてしまう場合があります。制度化された「学び」に内在する問題点とその対応策を、現場との協働(当事者とのコラボレーション)をとおして心理学的に研究しています。

講師
河合 直樹
Kawai Naoki
博士(人間・環境学)
人文学部 人間科学科

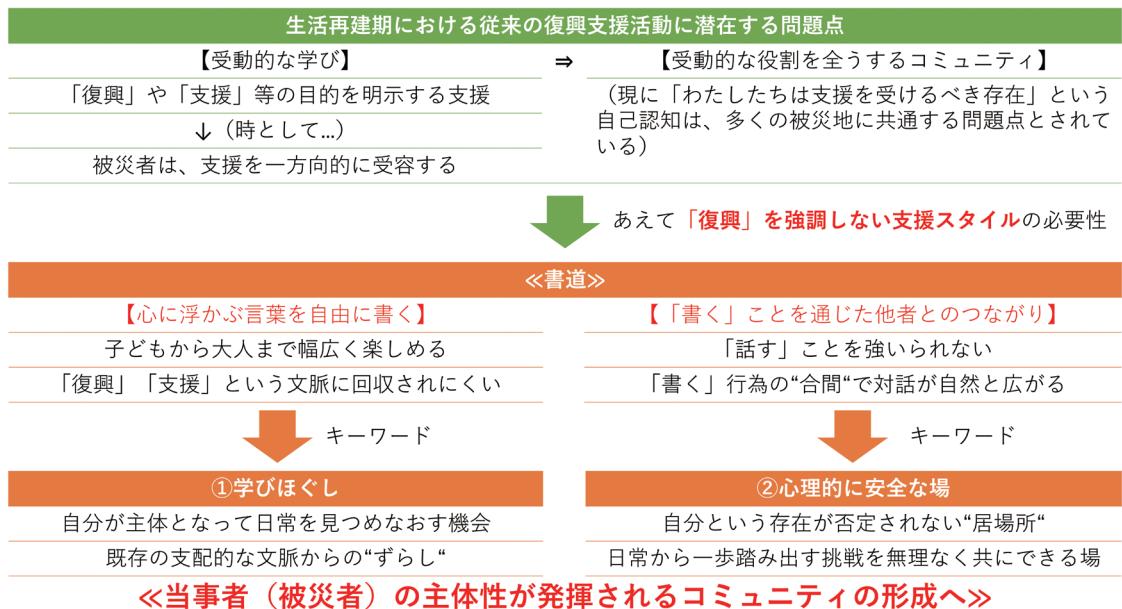


キーワード

心理学、主体性、書道、震災復興支援、
数学教育、組織開発

シーズ(研究)紹介

当事者の主体性を重視した社会的支援(例:震災被災者を対象とした書道教室)



実績と今後の活動予定

【実績1】学校教育における「学び」の研究

高校数学の教科書をテーマに、関係者へのインタビューによって現行教科書の使用の現状を明らかにしたうえで教科書を分析し、生徒が「学び」の主体となる新しい数学教科書構想を提案しました。

【実績2】社会的支援における「学び」の研究

東日本大震災被災地において「講師として書道教室を開く」というボランティア活動を継続し、被災者が主体となる場づくりの意義を研究しました。

【現在】教育と支援の混在する「学び」の研究

札幌市内の障がい者自立支援施設において書道教室を毎月開催し、障がいとともに生きる若者の「学び」に書道がどのように貢献するかを研究しています。

地域や産業界、自治体に向けて

「受け身の姿勢」を当事者にもたらす強大な文脈と対峙すると、思わず正面から反発したくなるかもしれません。しかし、当事者の視点に立つならば、当事者をその単一の文脈のみに回収するのではなく、当事者の生きる多様な可能性を確保することが重要です。書道は、当事者の主体性を回復するコミュニティを生み出す格好の媒体となります。近年は、非日本語話者への書道ワークショップを開催するほか、組織開発(組織の活性化)としての書道の意義を探求するなど、多角的なアプローチを行っています。現場とのコラボレーションを何より大切にするのが私の研究スタンスです。どうぞお気軽にお問い合わせください。

東南アジアの青年における描画表現



教授
佐野 友泰

SANO Tomoyasu
博士(心理学)
心理学部 臨床心理学科

地域・文化・気候の相違における若者の描画表現の相違を研究しています。主として東南アジアの大学、児童施設、貧困地域などに赴きデータを収集しています。



(キーワード) 東南アジア、描画、アートセラピー

シーズ(研究)紹介

地域・文化・気候による描画表現の相違把握／国ごとの表現の相違理解

日本の中高生の内面を
非言語的表現により理解

実績と今後の活動予定

東南アジアの子どもたちにどのように役に立てるか、現場に赴きつつ、心理学の立場から追及していきたいと考えています。

地域や産業界、自治体に向けて

東南アジアのことばかり書きましたが、「ストレス対処」「人間関係の心理」「恋愛の心理」「コミュニケーション力」などを講演では扱うことが多いです。

民族の言語を記録し、次世代に継承する試み

ニヴフ語の記録と保存活動



教授

白石 英才

SHIRAIKI Hidetoshi

博士(Ph.D. University of

Groningen, 2006

(Linguistics、言語学)

経済経営学部 経済学科

北東アジアの先住民族ニヴフ人の言語であるニヴフ語の調査・研究をしています。ニヴフ人はサハリン島においてアイヌ人の北の隣人です。20年以上にわたり現地で話者から聞き取り調査をし、ニヴフ語の記録に努めてきました。



キーワード

先住民族、言語保持、ニヴフ語、

Indigenous people, Language maintenance, Nivkh

シーズ(研究)紹介

ニヴフ語は話者数が極めて少なく、世界的に見ても記録・記述の緊急性が高い言語です。現在、ニヴフ人が日常的に使用する言語はロシア語ですが、ニヴフ語の使用を普及させるための言語保持活動も熱心に取り組まれています。



図1:ニヴフ人の居住域



写真:ニヴフ人の伝統的居住地の一つ、サハリン島西海岸
アレクサンドロフスク・サハリンスキー(亞港)



図2:ニヴフ語現地調査の成果を公刊した『ニヴフ語音声資料』にはニヴフ語の会話や民話、歌謡が収録されている。
(ロシア語訳、英訳、和訳付き)

実績と今後の活動予定

- 1998年 サハリンにてニヴフ語の現地調査に着手
1999年～2000年 サハリン州郷土博物館客員研究員として現地に居住、調査
2001年～2005年 University of Groningen(オランダ)研究助手
2005年以降 札幌学院大学を拠点に科研費等の研究助成を得ながら現地調査を継続し、記録した言語データを『ニヴフ語音声資料』として公刊(2016年までに計13号)。
今後はサハリン、アムール両地域での現地調査を予定。

地域や産業界、自治体に向けて

世界に6,000以上あるとされる言語の9割は今世紀中に消滅するとの予測があります。言語は個人および共同体のアイデンティティの拠りどころであることが多く、それが失われることは個人のみならずその個人が帰属意識を持つ集団にも大きな社会的影響を与えます。少数言語は、手をこまねいてはたやすく大言語に取って替わられてしまいます。話者数の大小にかかわらず、言語を保持・保護することは地域に活力をもたらします。言語学者はそのための支援ができる存在です。

产学官連携による地域創生の実現

地域課題解決型人材育成と新事業創出の推進



金融機関、地方自治体、ベンチャー企業、大学産学連携本部での実務経験を活かし、MOT(技術経営)教育、大学研究成果の技術移転による新事業創出、大学発ベンチャーの設立支援及び地域創成人材育成に取り組んできました。地域企業、金融機関、行政機関、大学等と幅広いネットワークがあり、産・学・官・金が連携した多面的な地域課題解決活動を展開しています。

教授
末富 弘
Suetomi Hiroshi
学士(法学)
経済経営学部 経営学科



キーワード

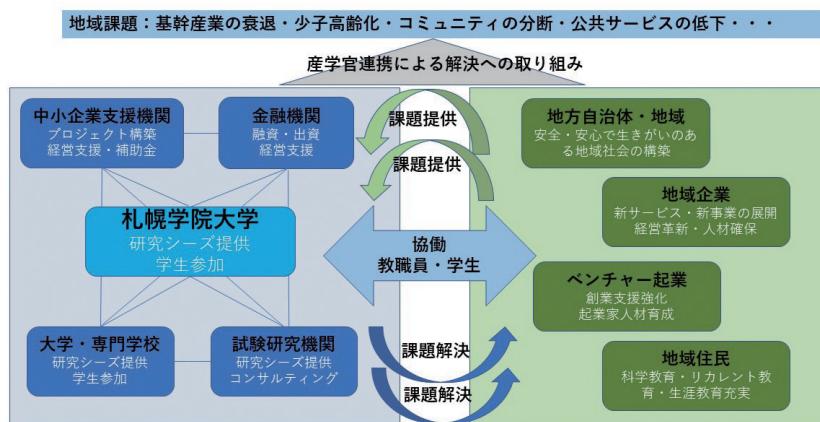
MOT(技術経営)、产学官連携、
技術移転、大学発ベンチャー

シーズ(研究)紹介

北海道は全国を上回るスピードで人口減少、高齢化が進んでおり、医療・福祉・商業などの生活に欠かせないサービスの低下やコミュニティの分断と機能低下、災害対応力の低下等、地域住民にとって深刻な課題が顕在化しています。今まで経験したことがない状況下での地域創生が求められていますが、新たな取り組みには大学の研究成果や教職員、学生等の資源を活用して協働することが効果的な場合があり、これらについて取り組むとともに結果について考察しています。例えば、地域課題発掘人材の育成と、その人材が実際に地域に入って調査を実施して当該地方自治体に提言を行う

プログラムを行いました。成果については今後の検証が必要ですが、提言策定の過程では受講生と当該地方自治体職員、住民等との活発な意見交換があり、今後の展開が期待されます。また、大学の研究成果の活用(技術移転)の責任者として技術移転に取り組み、効果的な技術移転について考察しています。また技術移転の受け皿としての大学発ベンチャーの設立及び起業家人材の育成について、地域金融機関や中小企業支援機関との連携を絡めた取り組み行っています。住民の皆様には、博物館を活用した科学教育や生涯教育について、研究しています。

地域課題解決のための協働



実績と今後の活動予定

20年間にわたり産学官連携の推進による地域企業の新事業進出や大学発ベンチャー設立、起業家人材育成、地域活性化人材育成等に取り組んできました。(北海道TLO、北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学、北洋銀行)また当該分野において、国、北海道、札幌市、経済団体等の委員等を歴任しました。今後は、地域の中小企業支援機関、企業、大学等と連携した創業支援や地域企業支援、子供たちの科学教育、リカレント教育等による地域活性化に貢献したいと思います。

地域や産業界、自治体に向けて

基幹産業の衰退による少子高齢化や東京一極集中が進み、地域社会を取り巻く環境は激変しています。また、経済のグローバル化・情報化の進展、AI・IoTの実用化は地域企業の在り方に大きな影響を与えています。これからの地域づくりや事業拡大・新事業創出には従来にない俯瞰的・多面的な発想と果敢な行動力が必要であり、大学や研究機関の研究成果の活用や教職員、学生等との協働が効果的な場合があります。地域の課題解決のために、大学と一緒に取り組んでまいりませんか。

ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探求する

「家族支援」「母子支援」「トラウマを抱えた人の支援」から



教授
横山 登志子
Yokoyama Toshiko
博士(社会福祉学)
人文学部 人間科学科

わたしたちの社会をかたちづくっている制度や関係性には、例外なくジェンダーによる分類と規範が根付いており、時として不平等が生み出されています。ジェンダー・センシティビティの視点から、あらゆる人の幸せや豊かさにつながるソーシャルワークの理論や実践はどうあるべきかを探求しています。



キーワード

ソーシャルワーク、ジェンダー、家族、母子、メンタルヘルス、実践と理論

シーズ(研究)紹介

実践およびフィールドワーク

母子生活支援施設でのフィールドワーク
(個別支援、家族支援、当事者研究)

女性生活困窮者のためのシェルターでの
フィールドワーク (参与観察、活動支援)

研究・社会的活動

トラウマや被害体験等を抱えた母子および
女性への支援に関する質的研究

フェミニストソーシャルワークの理論構築
(科学研究費助成事業 (基盤C) 2021~2025
年度)

女性支援のNPO法人正会員、
北海道M-GTA研究会 (質的研究法) 世話人、
学会活動 (理事、査読委員他)

実績と今後の活動予定

実践およびフィールドワークを基点とした実践的課題について、質的研究や実態調査、理論研究、社会的活動などを行ってきました。その成果は報告書や学会発表、論文、図書出版(共著)で公開しています。今後も継続して、ソーシャルワークにおける家族、女性への支援に焦点をあてて研究を進めています。

『ジェンダーからソーシャルワークを問う』(2020)横山登志子、須藤八千代、大嶋栄子編著、ハウレーカ

地域や産業界、自治体に向けて

ソーシャルワーク実践は、個人や家族の問題解決を支援するだけではなく、地域での関係者のネットワーク、地域づくり、制度や社会規範の変革にむけた活動までの広がりを有しています。いくつもの困難を抱えた家族や女性に対する支援のあり方を、実践と理論の往還のなかで考え続け、質的研究を用いて探求しています。

地域企業の顧客ロイヤルティ構築及び発展に向けて

多様な人財の育成・活用の重要性について



航空会社で長年ホスピタリティを考察し実践してきた中で、個々の能力向上はもちろんのこと、チーム（組織）で成果を上げる意識醸成や具体的な仕組み作りの重要性を学び、PDCAサイクルを確立する活動を行ってきました。

現在は本学教員との副業で研修講師として企業に出向き、人事担当の方や受講生の方々と対話し、納得感のある意識変革や演習での実践体得を牽引すべく「共に学び合う」姿勢で取り組んでおります。

特任教授
矢川 美恵子
Yagawa Mieko
経済経営学部 経営学科



キーワード

ホスピタリティ、コミュニケーション、ビジネスマナー、社会人基礎力、チームビルディング

シーズ（研究）紹介

研究テーマ

「企業における人財活用の実情と就職前に身に付けておくべき能力要素についての継続的な考察」

ICT時代の労働市場は流動的ではありますが、AIには担えない普遍的な「人」の力に更に着目し、EQ（感情面や情緒面において健康で、かつ人間関係を適切にこなせる人格的能力）に関心を高め、行動化できる人財の育成輩出が望まれます。

ベースとなるホスピタリティ・マインドの醸成や他者理解、精神的経済的自律を促し、産学双方から継続的に支援することが目標です。

グローバル化、オンライン化が進む環境下、多様な人とのコミュニケーション力の向上は必須課題となっており、概念の理解、態度、TPOや文化の違いに合わせた表現方法、言葉遣いなど、実践的なコミュニケーションスキルを学修し体現化するカリキュラムを検討しています。

実績と今後の活動予定

ANA客室乗務員（1979年～2000年）

ANA客室乗務員管理職（2000年～2012年）

ANAビジネスソリューション研修講師（2012年～現在）

＜講演・研修実績＞

新入社員研修／接遇マナー研修／コミュニケーション研修／チームビルディング研修／リーダーシップ研修／クレーム対応研修／管理職研修／ユニバーサルマナー研修など

時間：1時間～7時間×2日間 受講聴講対象者：4名～230名

地域や産業界、自治体に向けて

時代の変革期において、北海道の豊かな土地や自然は何よりの宝であることを再認識しています。

北海道の地域特性やアイデンティティを生かし、様々な分野で、多様な人・動植物と資源を分かち合い共存発展する企業を数多く創出し、緩やかに経済発展していく社会が望ましいと考えます。

ジェンダー平等については、女性の強みや潜在的保有能力を更に引き出し、地域に根差して活躍する人財の育成に寄与したいと考えております。

アイヌ語を探究する

危機言語・少数言語の記述と記録



講師
岸本 宜久

Kishimoto Yoshihisa
博士(文学)
経済経営学部 経営学科

言語学の立場からアイヌ語の研究をしています。とくに、鶴川地方でのアイヌ語のフィールドワークを通じて、言語・文化の記述(危機言語ドキュメンテーション)を行っています。また、地域の危機言語という観点から、日本語北海道方言や日本手話(とりわけ、北海道手話)についても関心をもって調査・記録に取り組んでいます。



キーワード

言語学、アイヌ語、危機言語、
少数言語、北海道方言、日本手話

シーズ(研究)紹介

北海道むかわ町をフィールドに、アイヌ語の継承語話者(家庭などで自然にアイヌ語を獲得した話者)への言語調査を行ってきました。ここでは調査の様子を少しご紹介したいと思います。むかわ町には鶴川という大きな川が流れていて、その河口はシシャモがどれることで有名です。鶴川でのアイヌ語調査においても、シシャモ(susam)に関するさまざまなお話をうかがうことができました。まさにこの土地ならではの言語的、文化的な情報として貴重です。



図1. シシャモで有名な鶴川の河口域

主な調査協力者は、むかわ町のご出身でアイヌ語の継承語話者である吉村冬子さん(大正15年生まれ)です。「ひと言葉でも多くきなさい」という継承への強いお気持ちをもって調査に臨まれ、数えきれないほどの語彙や談話、文法的な判断についてお教えいただきました。

もちろん、言語に関すること以外にも、経験に基づく豊かな文化的・歴史的知識を数多く教えていただきました。



図2. アイヌ語の調査風景



図3. tar(背負い紐)の使い方を実演する調査協力者



図4. itese(ござ編み)をする調査協力者

調査で得られた貴重な言語・文化的な情報は、アイヌ語の言語研究への活用のみならず、地域での継承に役立てていただけるよう、公開に向けたデータの整理にも取り組んでいきたいと思います。

この場を借りてあらためて、吉村冬子さんとご家族の皆さん、お世話になった皆さんに深く感謝申し上げます。

実績と今後の活動予定

2017年～2018年 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
□承文芸視聴覚資料作成事業編集委員会委員
2020年～2024年 日本学術振興会科学研究費助成事業:若手研究
「アイヌ語鶴川方言のフィールド調査およびデータの公開」

地域や産業界、自治体に向けて

2012年以降、北海道の鶴川地域で継続的なアイヌ語のフィールドワーク(言語調査)をおこなってきました。調査を通じて得られたアイヌ語・アイヌ文化に関する貴重なフィールドデータは、学術研究のみならず、地域やコミュニティにおけるアイヌ語・アイヌ文化の継承や学習においても利活用されるよう、公開にむけて取り組んでいます。

ダイバーシティ・インクルージョン時代の 人材養成と国家再生

特別支援教育、職業リハビリテーション分野でのイノベーションとCCRC



教授
田中 敦士
Tanaka Atsushi
修士(教育学)
人文学部 人間科学科

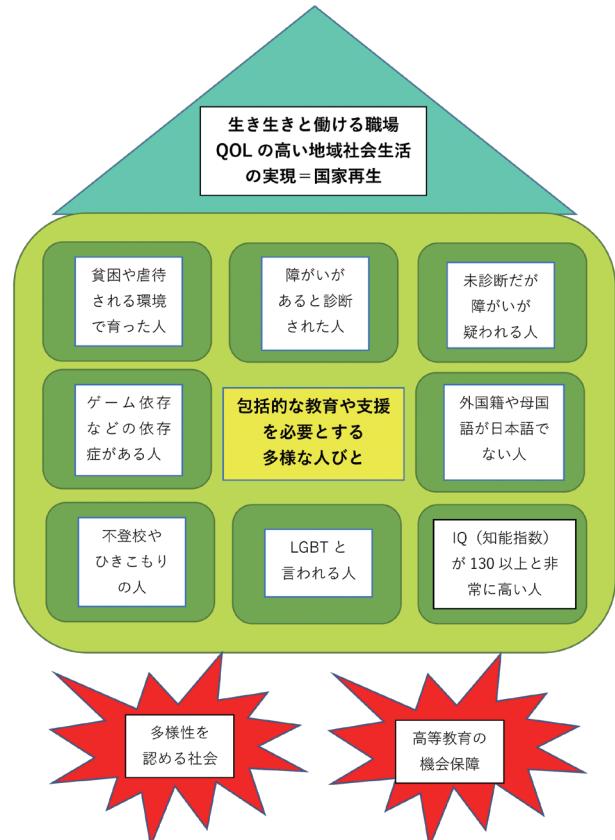
厚生労働省障害者雇用対策課の行政研究を5年間、沖縄での特別支援教育教員・職リハ人材の養成を17年間やってきました。真に意見を言い合える日韓関係を目指して、アジアヒューマンサービス学会を日韓共同で創設し、理事や3種類の学術誌(AJHS、TRR、JIE)の編集委員長を務めました。特別支援教育、職業リハビリテーションというわが国ではマイナーな2つの学問分野において、今度は北海道からアジアに発信していきます。



(キーワード)
ダイバーシティ教育、特別支援教育、
職業リハビリテーション、障害者雇用、
ヒューマンサービス、ジョブコーチ

シーズ(研究)紹介

わが国の特別支援教育は、国際的にみると残念ながら後進国です。アジアの中でも韓国や台湾などから学ぶことがたくさんあります。少子化社会においては、これまで社会から排除されてきた「包括的な教育や支援を必要とする多様な人びと」の力が必ず必要になります。彼らの多様性を認められる成熟した社会になり、彼らの大学進学の道が開ければ、新たな労働力が確保されるだけでなく、一部は特異的な能力を開花させ、国家に多大な貢献をしてくれることでしょう。社会経験豊富な高齢者の社会参加も少子化に伴う人材不足を補い、豊かな健康長寿社会の実現に近づきます。CCRC(Continuing Care Retirement Community)の研究も産学官連携で進めていきたいと思っています。



実績と今後の活動予定

- 1997～2002年 日本障害者雇用促進協会 研究員
2003～2018年 沖縄県教育委員会 教育職員免許法認定講習講師
2003～2018年 沖縄県立特別支援学校 評議員(毎年1～3校)
2003～2019 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
客員研究員
2011～現在 Asian Society of Human Services Director
2014～現在 日本発達障害学会 評議員
2015～現在 日本特殊教育学会 「特殊教育学研究」編集委員
2019～現在 なよろ地方職親会 ジョブコーチ養成研修講師

- 2020～現在 札幌市教育委員会 札幌市児童アセスメント委員会 委員
2021～現在 北海道教育委員会 北海道教科用図書選定審議会 委員
2021～現在 北海道教育委員会 北海道教員育成協議会 委員

地域や産業界、自治体に向けて

令和元年度に着任しました。北海道の地でこれまでの経験とノウハウを生かして貢献できるよう、開拓者精神で頑張ります。発達障がいなど多様な人々が大学で生き生きと学び、社会に貢献できる人材養成を目指します。特別支援教育、職業リハビリテーション分野での産学官連携とCCRCにつながる研究実践を目指しています。障害者雇用の促進とQOLの向上に貢献したいと願っています。

地域文化遺産の保存と活用



教授
臼杵 熊
USUKI Isao
博士(歴史学)
人文学部 人間科学科

考古学研究とともに文化財行政に携わってきました。現在も地域文化財の保存・活用のお手伝いをしています。地域の文化遺産の継承と地域活性化への活用を日々考えています。

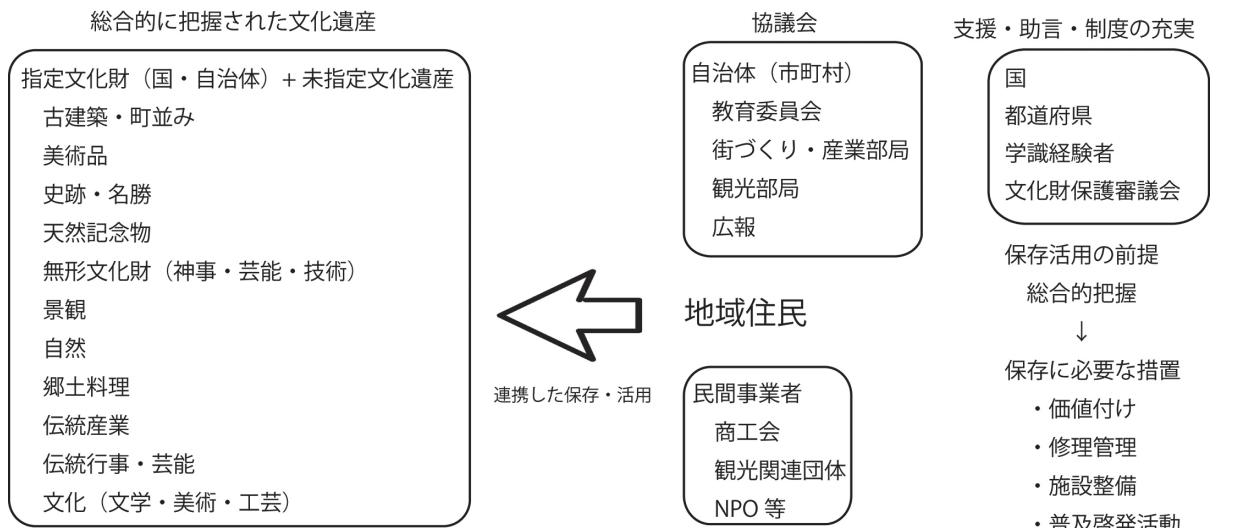


(キーワード) 文化遺産、地域活性化

シーズ(研究)紹介

少子高齢化・人口減少の中で、地域の持つ文化遺産の継承は困難に直面しています。一方、教育、街づくり、観光、地場産業の振興、さらには災害対策・復興など、様々な地域課題に、文化遺産はヒントを与えてくれます。歴史まちづくり法の制定や文化財保護法の

改正により、それらを具体化させる方向性が打ち出されました。地域の文化遺産を着実に保存・継承し、現代社会において有効に活用することにより地域活性化に貢献する道筋を検討しています。



実績と今後の活動予定

- 2000年4月～2002年3月 文化庁記念物課文化財調査官
2014年7月～2018年6月 北海道文化財保護審議会会長
2014年9月～現在 日本学術会議連携会員
文化財の保護と活用に関する分科会
2015年9月～2017年3月 新ひだか町シベチャリ川流域チャシ跡群保存管理
計画策定委員会 副委員長
2015年11月～現在 小樽市文化財保護審議会 委員
2015年11月～2019年3月 斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員会
委員長
2016年4月～2018年3月 小樽市歴史文化基本構想策定委員会 委員
2017年8月～ 中標津町町内遺跡調査協力

- 2018年10月～現在 上ノ国町史跡上ノ国館跡史跡整備検討委員会
委員長
2019年7月～現在 厚沢部町史跡松前氏城跡館城跡整備検討委員会
委員長
2020年2月～現在 斜里町遺跡調査活用検討委員会 委員長

地域や産業界、自治体に向けて

文化遺産の継承と活用には、市民・民間団体・産業界・教育研究機関などの幅広い参加が求められています。北海道の歴史・文化の産物を現代に活用することで地域を元気にする方法をともに考えていくべきだと思います。

「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化



考古学を専門に調査研究に取り組んできました。考古学はフィールド(地域)と密接に結びついた学問ということもあります。人口減少などの大きな問題を抱える地域に大学および研究活動がどのように貢献できるのかを、地域住民の方々と一緒に「文化財の保存と経済活動の両立」を観点に考えながら、地域社会の課題解決に取り組んでいます。

講師
大塚 宜明
OTSUKA Yoshiaki
博士(史学)
人文学部 人間科学科

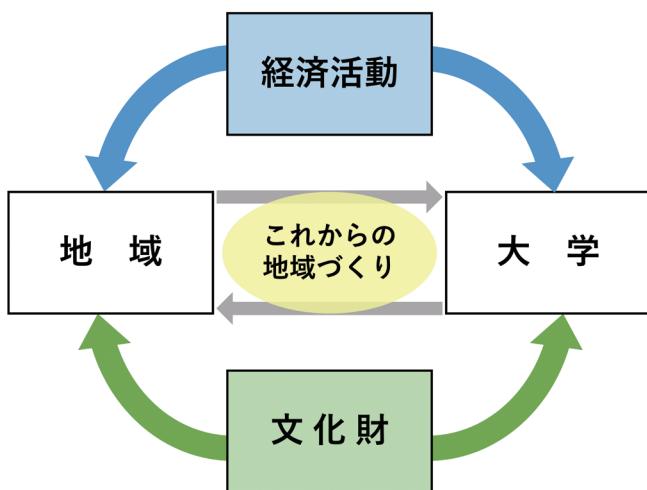


キーワード

地域社会の活性化、サイエンス・コミュニケーション、文化財、経済活動

シーズ(研究)紹介

地域にある文化財。学問上、著名で重要な文化財も、現在地域に生活する人々にとって疎遠な存在になりつつあります。地域の財産である文化財の価値を地域住民の方々と共有し、「文化財の保存と経済活動の両立」を観点に地域社会の活性化の新たな材料とともに、中長期的な視点から地域社会の維持・発展の中核となる担い手の育成を目指しています。



発掘調査地での地域連携授業風景



教室での地域連携授業風景

実績と今後の活動予定

2006年4月～2007年3月 神奈川県大磯町史編纂委員会調査協力員
2017年6～現在 東京都世田谷区史編さん委員会 専門部会委員
2019年～現在 上ノ国町史跡上ノ国館跡史跡に調査協力
2019年～現在 北海道常呂郡置戸町 ふるさと教育事業に協力
他にも、北海道を中心に多数の自治体と協力し、研究・教育活動を進めています。

地域や産業界、自治体に向けて

地域の課題の一つである人口減少や人口の少なさも、顔の見える関係で相互に意見交換する上では大きなメリットがあります。地域の文化財のもつ魅力を引き出し、それを材料に地域住民の方々と意見を出しあいながら「これからの地域像」を育していくことができればと考えています。

地域活性化とアイドルの活用

いまや地域から全国へ羽ばたいていった若者は地域の宝だ



教授
神谷 章生
KAMITANI Akio
修士(法学)
法学部 法律学科

行政学、公共政策論、政治思想を担当しています。

出身は大阪ですが、名古屋、愛媛、三重と渡り歩いて、1999年に北海道にたどり着き(岩見沢)、すでに20年を超えてました(現在札幌)。この北海道をいかにして魅力ある土地にするかについて考察し実行しています。



キーワード

地域、活性化、アイドル、集客、継続性、移住定住

シーズ(研究)紹介

前提として現在のアイドル文化を支えている年代が10代から60代ときわめて広範囲の年代であること。かつてのように高齢化すれば演歌やムード歌謡に流れていくという時代ではない。これを基底条件に、2000年代後半「会いに行けるアイドル」として登場したAKB48は若者ではなくそれなりに財力のある中高年層に支持された。

またももいろクローバーZのファン組織であるもののふも中高年層が多い。このポイントは地方でコンサートやイベントを開催すると数万人単位で流入するということだ。地域を代表するアイドルユニットが全国区の人気を勝ち取るならば大きな経済効果、人的流入効果があると考えるゆえんである。

実績と今後の活動予定

いくつか考えているが、ひとつは北海道から流出し全国区で活躍しつつあるタレントを出身地と結びつけ地域活性の起爆剤とすること。札幌ではなく、道内の過疎地域出身者と全国を結びつける。観光大使、親善大使など。ふたつめはその人物を軸に過疎地域でイベントやコンサートを開催する。おそらく300～500人くらいが全国から集結する。3つめは以上2つを達成することで、周辺の地方中核都市で通常のコンサートを開催する。

地域や産業界、自治体に向けて

北海道からアイドルやタレントを夢見て実際にオーディションを受けている若者はどれくらいいると思いますか。もちろん正確な数はわかりませんが、2018年10月本学の講演に招いたNGT48支配人は新潟に80人は書類を送ってきたと言っておりました。地方都市新潟でその数だとすると三大都市圏だとその数倍、東京だと10倍くらいはあるかもしれません。そういう若い有意な人材をみすみす首都圏はじめとする他都市に奪われるのか、それとも道内に根付いてここから全国へ発信していくのか、喫緊の課題であると思っています。現在、人口の自然増は難しく社会増を目指すとするならば自然や気候といった北海道の魅力以外に、若者がワクワクするような北海道を作ることが必要だと考えています。

ソーシャルビジネスによる地域創生

社会課題をビジネスで解決



教授
河西 邦人
Kawanishi Kunihito
修士(商学)
学長

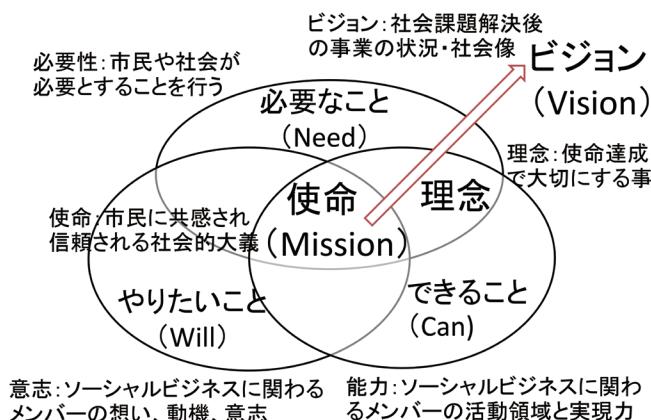
SDGs(持続可能な開発目標)に代表されるように社会には多様な課題が存在し、それらを解決しなければ持続可能な社会を構築することはできません。特に日本は人口の減少に直面し、従来の地域づくりだけで持続可能な社会を構築するのは困難です。そこで、21世紀になって注目されているのが、社会課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス、地域社会の課題を解決するコミュニティビジネスです。市場メカニズムだけではなく、共感、共有、循環といった理念を持つソーシャルビジネス、コミュニティビジネスを活用した地域創生を研究しています。



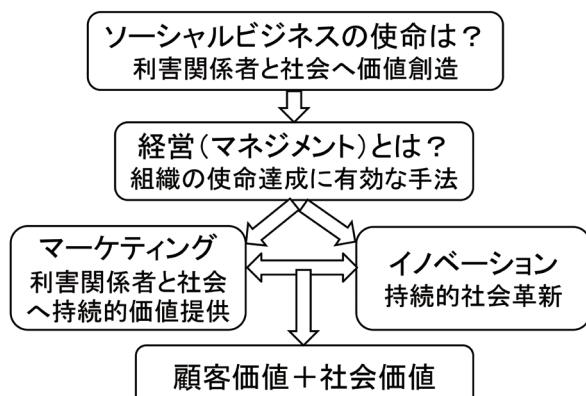
(キーワード)
SDGs、ソーシャルビジネス

シーズ(研究)紹介

ソーシャルビジネスの使命とビジョン



ソーシャルビジネスの経営の本質



実績と今後の活動予定

- 2008年～現在 北広島市コミュニティビジネス・アドバイザー
- 2009年～2017年 北海道公益認定等審議会会長
- 2012年～2021年 札幌市と共に「さっぽろソーシャルビジネススクール」運営
- 2013年～現在 北広島市商工業審議会会長
- 2015年～現在 浦河町地方創生推進会議委員
- 2015年～現在 NPO法人北海道NPOバンク理事長
ソーシャルビジネスの成功事例を分析し、地域創生に貢献できるソーシャルビジネスの戦略を研究します。

地域や産業界、自治体に向けて

ゼミ、授業、企業との共同研究を通じて道内各地へ調査を行います。また、PBLと呼ばれる課題解決型教育の一環として自治体と連携し、地域創生に関するアンケート調査やヒヤリング調査を行い、課題解決のための住民向けワークショップ、商品開発を行っています。また、高校生、大学生、社会人の起業家育成教育にも取り組んでいます。

現代社会におけるエイジングとケアの可能性

エイジング(老い)と向き合い、共に支え合う社会の構築をめざす

認知症への関心から、介護保険法成立と同時に研究を開始し、高齢者保健福祉政策の展開を追いつつ、老いとそれをめぐる家族や社会の変化について論考してきました。最近の研究課題は、社会学におけるライフヒストリー、社会福祉におけるフェミニスト・ソーシャルワーク、歴史学の一分野である地域女性史、これらに一貫する「生」に対する「痛覚」を高齢者福祉の方法論として位置付けることです。教育面での展開としては、主としてゼミナールにおいて、江別市大麻地区や札幌市もみじ台地区での地域活性化にむけたフィールドワークを継続的に実施しています。



准教授
新田 雅子
Nitta Masako
修士(社会学)
人文学部 人間科学科



キーワード

エイジング(老い)、高齢者福祉、ケア(介護、介助等)、
ライフヒストリー、女性史、地域(コミュニティ)

シーズ(研究)紹介

エイジズム(老人差別)の克服を目指して米国で始まった社会老年学の最大の成果のひとつは、高齢者の多様性の発見でした。老いが誰にでも等しく訪れるということの尊さと、そのプロセスが極めて個別多様であること、この両義性についての認識なしに「人生100年時代」に正しく向き合うことはできません。老いがもたらすダイバー

シティを担保しつつ、高齢期に誰もが抱える経済的・社会的・肉体的・心理的課題に社会全体としてどう向き合うか。それは社会的公正ないし社会正義の問題であり、倫理哲学の問い合わせもあり、もちろん経済的かつ政治的な課題もあります。私は老いや個人の生という視点に立脚して、それを考え続けています。

| アプローチ(視点と方法) | 研究対象 | (学術研究以外の) ソーシャルアクション |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・福祉社会学・社会老年学・ライフヒストリー・女性史・フェミニズムなど | <ul style="list-style-type: none">・個人の老い・社会の高齢化・老人保健福祉政策・介護保険制度・孤独死と地域・相互行為としての介護 | <ul style="list-style-type: none">・シニア向け、住民向け講座の講師・研修会やワークショップの講師・行政計画策定等の委員・世代間交流の企画など |

実績と今後の活動予定

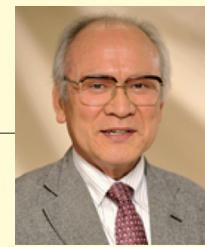
2014年～2018年 北海道福祉サービス運営適正化委員会苦情解決委員
2016年～2018年 江別市介護保険事業計画策定等委員会 委員長
2019年～現在 江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会委員

地域や産業界、自治体に向けて

シニアの就労、生涯学習、介護予防、フレイリティ、認知症、在宅ケア、孤独死——老いにまつわるさまざまな今日的課題を、常に変化する「プロセス」として見つめるとともに個と個あるいは個と社会との「関係」という視点で捉える(=すなわち、「自分事」として考える)ための学びを、さまざまな人(介護福祉職、一般市民、学生など老若男女)に対し、さまざまな場(学内外での講義、実務者研修、市民講座、町内会自治会等)で実践しています。研究室や教室以外での人の出会いは、私にとって大切な気づきの機会です。

持続可能な地域創生のための 「地域経営学」の学術的理論構築

—地域価値創造のための「長期・短期の課題設定とその解決」に向けて—



名誉教授
藤永 弘
Fujinaga Hiroshi

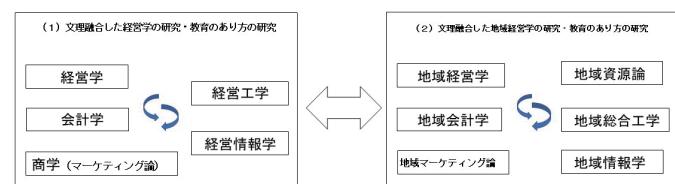
「経済学(金融論)の研究」から「経営学・会計学・マーケティングの研究」へ進み、現在は、諸科学の最先端の研究成果・知見を取り込んだ新たな学問領域である「地域経営学」の学術的理論構築と共に、持続可能な地域社会の創造のための「地域経営学」の実践的な課題に取り組んでいる。



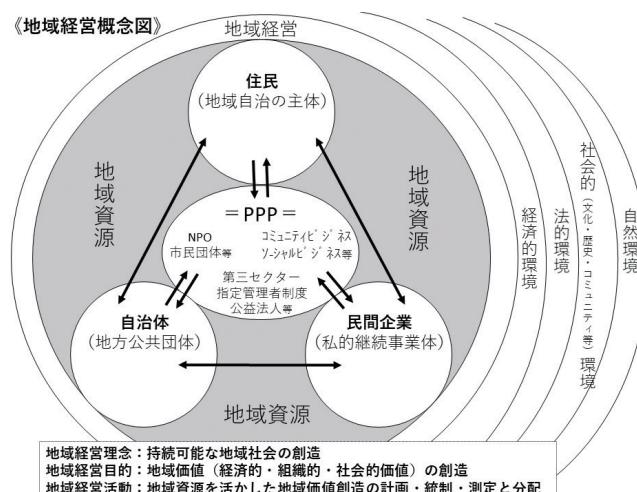
キーワード
地域経営学、持続可能性、
地域創生

シーズ(研究)紹介

①経営学・会計学・商学(マーケティング)・経営工学・経営情報
学の「融合(文理融合を含む)した経営学の研究・教育のあり
方の研究」



②有形・無形の地域特性・地域資源を活かした地域価値の創造
のための「地域経営学の研究・教育のあり方の研究」



③新しい時代における「大学の経営・研究・教育・地域貢献のあり
方の研究」(共同研究)

④新しい時代における「自治体のあり方の研究」(共同研究)

実績と今後の活動予定

- 1959年～2008年 札幌学院大学専任講師・助教授・教授
1981年～2005年 札幌学院大学会計学研究所長
1988年～1989年 ドイツ・マンハイム大学客員研究員
1991年～1995年 札幌学院大学商学部長
2006年～2020年 日本学術会議連携会員
2008年～現在 札幌学院大学名誉教授
2009年～2012年 日本会計教育学会会長
2008年～2016年 青森公立大学大学院教授
2013年～2016年 青森中央学院大学大学院特任教授
2016年～現在 地域経営未来総合研究所長
2019年～現在 特定非営利活動(NPO)法人地域活性化貢献会議監事
2020年～現在 地域経営学会会長

地域や産業界、自治体に向けて

- ①地域経営学とは、持続可能な地域社会の創造を地域経営理念として、地域住民の視点から、地域の特性、地域の有形・無形の資源を活かした地域価値の創造のために長期・短期の課題設定とその解決を図るための科学的知識の体系である。
②このような地域経営学の定義から、持続可能な地域社会の創造のための「地場産業の振興と新規産業の導入」、「新規起業と起業者育成」、「事業承継と事業後継者育成」の研究と地域社会の現場での具体的な指導を行っている。
③地域創生に向けての企業経営および地域経営(マネジメント・アカウンティング・マーケティング・デジタル化の統合した企業経営および地域経営)、起業などに関する各種公開講座の企画と運営 等

ソフトウェア工学と地域づくり



教授
渡邊 慎哉

Watanabe Shinya
博士(工学)
経済経営学部 経営学科

プログラミング言語や分散計算モデル、ソフトウェア工学に関する研究活動を経て、現在は地域でのIT活用を主なターゲットとしてIoTやAIの活用など、ITの応用分野を主に研究しています。



キーワード

ソフトウェア工学、まちづくり、地域情報、IT活用、デジタルシティ

シーズ(研究)紹介

1. ソフトウェア工学の地域づくりへの応用

ソフトウェア工学は高品質なソフトウェアを設計・構築するための様々な方法論を研究する分野です。一見地域づくりとはかけはなれた分野のように感じられますが、ソフトウェアを設計・構築することと、地域を作っていくことの間には類似点が多数存在します。(図1)は街を構成するパーツをソフトウェアパーツに見立てて、パーツ同士の関係を構造的に表現したものです。

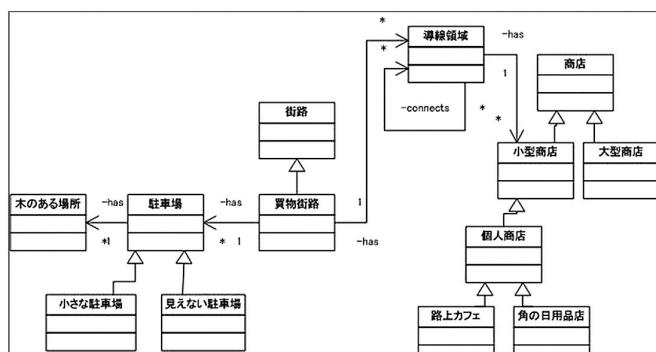


図1 地域パートの構造的表現

2. 地域デジタルアーカイブ

地域の文化や歴史をデジタル化して蓄積し、それらを公開したり分析したりするための技法を研究します。実績としては、江別市にご協力いただき広報えべつのために撮影された昭和27年からの写真(フィルム)を2万枚デジタル化してアーカイブしました。また、江別の街並みを後世に伝えるためのコミュニティ設立にたずさわりました。



図2 地域デジタルアーカイブの閲覧



図3 地域デジタルアーカイブの時系列表示

実績と今後の活動予定

2004年～2007年 江別ブランド事典プロジェクト参加
2004年～現在 江別経済ネットワーク副代表幹事
2005年 GISに関する共同研究

地域や産業界、自治体に向けて

地域は経済・防災・医療・文化・歴史・教育など様々な分野でITを活用できる土壤があります。長年にわたってITの研究に関わってきた研究者として地域づくりに貢献できればと思っています。

持続可能な生産と消費

社会的課題を解決するビジネス

金融機関、消費者教育支援センター、長岡大学を経て現職。日本証券業協会金融・証券教育支援委員会公益委員他。専門は、消費者行動、消費者教育、金融教育。

主な業績:『パーソナルファイナンス教育の理論と実証—大学生の消費者市民力の育成—』(慶應義塾大学出版会、2018)、『新しい消費者教育—これからの消費生活を考える—』(慶應義塾大学出版会、2016)、“The Effectiveness of Personal Financial Education for College Students: Analysis of a University in the Unites States”『消費者教育』(第33冊、2013)などがある。



教授
橋長 真紀子
Hashinaga Makiko

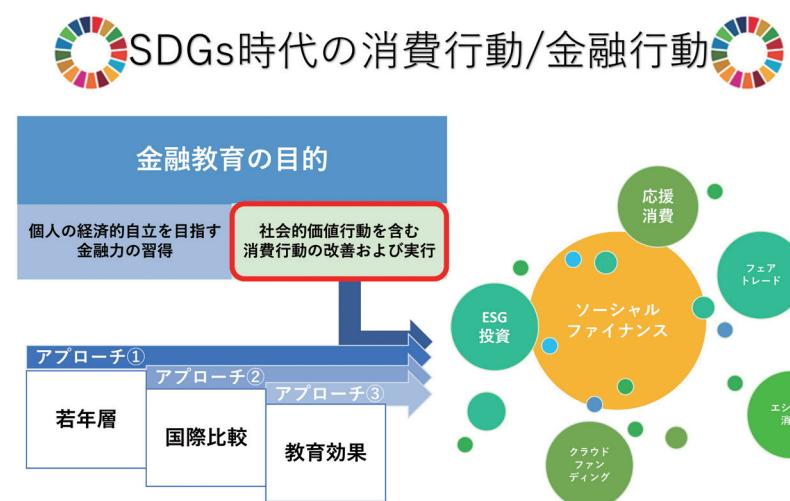
博士(教育学)
経済経営学部 経営学科



(キーワード) 貧困をなくそう、飢餓をゼロに、
人や国の不平等をなくそう、つ
くる責任つかう責任、平和と公正をすべての人
に、パートナーシップで目標を達成しよう

シーズ(研究)紹介

長年、若年層の健全な金融行動を促す金融教育について、国際比較研究や教育の効果測定など多面的に研究してきた。そこで明らかにされた点は、社会的価値行動の育成に寄与する効果的な教育プログラムのあり方であり、金融教育の目的は、個人の経済的自立を目指す金融力の習得と社会的価値行動を含む消費行動の改善および実行の2つがあることを実証した。近年は、金融の社会性に着目し、社会性と収益性の両方を追求したソーシャルファイナンスへ投資する消費者の特性や志向性に関する国際比較研究に取り組んでいる。



実績と今後の活動予定

- 2019年 6月 札幌学院大学人文学部公開講座・江別市民カレッジ講座・道民フレッジ連携講座「SDGs時代で求められる社会教育—社会活動家からの提起—消費者教育とフェアトレード」講師
- 2019年 8月 北海道新聞社主催・北海道共催
道新フォーラム「北海道の未来とSDGs」パネリスト
- 2019年 10月 日本消費者教育学会主催・札幌市共催「持続可能な生産と消費を考える—北海道の事例からー」ファシリテーター
- 2019年 10月 江別市主催・ふるさと江別塾「SDGsとフェアトレード」講師
- 2019年 10月 江別市民環境講座「持続可能な生産と消費—フェアトレードの事例からー」講師
- 2019年 10月 日本国消費生活相談員協会北海道支部主催「地域に根ざす消費者教育セミナー: キガルな買い物、それってエシカル? ~ファッショングから見たSDGs~」ファシリテーター
- 2019年 9月～ 北海道SDGs推進人材バンク 登録講師
- 2019年10月～ SDGs Quest みらい甲子園 北海道実行委員会委員長
- 2019年 9月 国民生活センター 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2020年 10月 札幌消費者協会主催 連続時事講座「フェアトレードはなぜ必要か」講師
- 2021年 1月 苫小牧市教育委員会・苫小牧市女性団体連絡協議会主催令和2年度苫小牧市民塾「エシカル消費—消費者市民の育成を目指した教育実践からー」講師

- 2021年 8月 北海道消費者協会主催 令和3年度消費生活リーダー養成講座「エシカル消費で作る新たな日常」講師
- 2021年 9月 日本消費者教育学会・国民生活センター主催 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2021年 12月 札幌消費者協会主催 消費生活講座「生活の質を高める新しい日常とは」講師
- 2022年 8月 北海道消費者協会主催 令和4年度消費生活リーダー養成講座「エシカル消費で作る新たな日常」講師
- 2022年 9月 日本消費者教育学会・国民生活センター主催 消費者教育学生セミナー アドバイザー講師
- 2022年 10月 苫小牧市主催 第49回みんなの消費生活展「成年年齢引き下げの現状と課題—若年消費者の自立支援を考えるー」コーディネーター

地域や産業界、自治体に向けて

「エシカル消費」(倫理的な消費)とは、環境、社会、人権に配慮した消費のことをいいますが、近年このような自らの消費行動が与える影響を考えながら生活する消費者が増加しています。消費者の社会的価値行動の研究成果から、持続可能な生産と消費について考える講座を行います。

Team Power Based on the Upper Echelons Theory

Effects of Top Management Team on Corporate Sustainability



講師 黃昕 HUANG Xin

博士 (Ph.D in Business Administration (Osaka University))

Faculty of Economics and Business Department of Business Administration

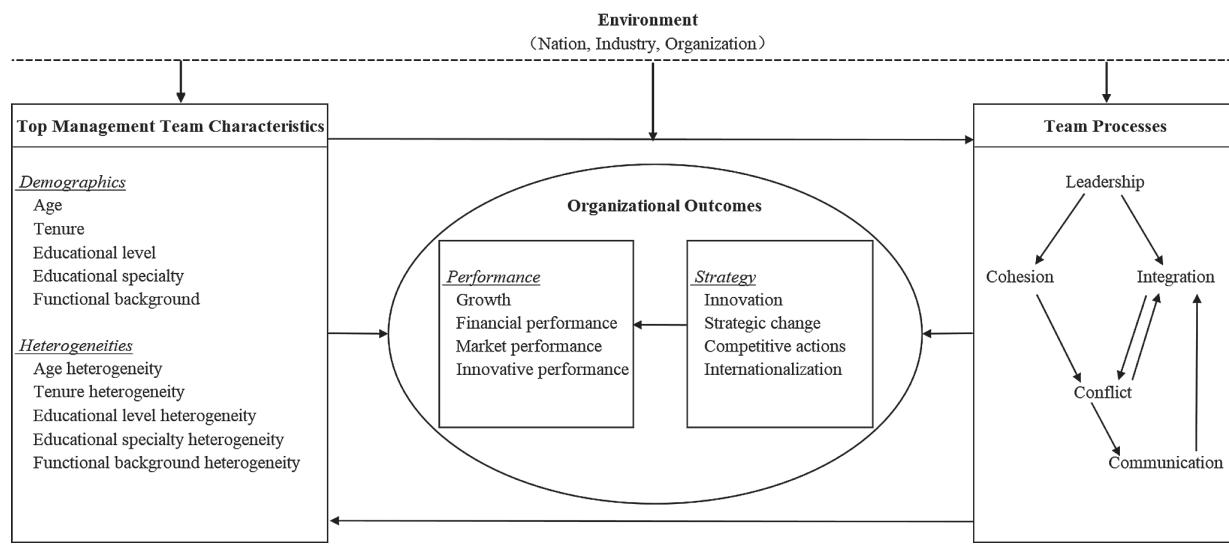
Completed doctoral course in the Department of Business and Management at Osaka University.
Research on how top management team characteristics affect corporate activities and firm performance.



キーワード

Top Management Team, Innovation, Corporate Social Responsibility, トップマネジメントチーム、イノベーション、社会的責任

シーズ(研究)紹介



Source : Xin Huang, Koichi Nakagawa (2017). Top management team characteristics and team processes: A review. *Osaka Economic Papers*, 67(2+3+4), p.28.

実績と今後の活動予定

2014. Best Paper Award (Finalist). The 12th World Congress of the International Federation of Scholarly Associations of Management.
2015. Best PhD Paper Award. The 32nd Annual Conference of the Euro-Asia Management Studies Association.
2015. Effects of top management team characteristics on enterprise innovation activities: Evidence from the board for small and medium-sized enterprises in China. *Journal of Business Management*, (35), 67-79.
2017. Top management team characteristics and team processes: A review. *Osaka Economic Papers*, 67(2+3+4), 1-39.
2019. Impacts of top management team characteristics on corporate charitable activity: Evidence from Chinese listed companies. *Journal of International Business and Economics*, 7(2), 60-73.
- 2020~. Research on effects of diversity and female executives in top management teams on corporate behavior and performance

地域や産業界、自治体に向けて

Research provides clues to forecast corporate movement and growth through observable data. In recent years, I have conducted some courses at local high school irregularly.

キーワード索引

| | | | |
|----|---------------------------------|-------|-----|
| 1 | Corporate Social Responsibility | 黄昕 | 27P |
| 2 | Innovation | 黄昕 | 27P |
| 3 | IT活用 | 渡邊慎哉 | 25P |
| 4 | MOT(技術経営) | 末富弘 | 14P |
| 5 | SDGs | 石田潔 | 04P |
| 6 | Top Management Team | 黄昕 | 27P |
| 7 | アートセラピー | 佐野友泰 | 12P |
| 8 | アイドル | 神谷章生 | 21P |
| 9 | アイヌ語 | 岸本宜久 | 17P |
| 10 | いじめ | 大澤真平 | 03P |
| 11 | 移住定住 | 神谷章生 | 21P |
| 12 | イノベーション | 黄昕 | 27P |
| 13 | 居場所 | 井上寿枝 | 05P |
| 14 | エイジング(老い) | 新田雅子 | 23P |
| 15 | カウンセラー | ト部洋子 | 06P |
| 16 | 学生相談室 | ト部洋子 | 06P |
| 17 | 家族 | 横山登志子 | 15P |
| 18 | 家族支援 | 山本彩 | 09P |
| 19 | 活性化 | 神谷章生 | 21P |
| 20 | 記憶力 | 大宮秀淑 | 07P |
| 21 | 飢餓をゼロに | 橋長真紀子 | 26P |
| 22 | 危機言語 | 岸本 宜久 | 17P |
| 23 | 技術移転 | 末富弘 | 14P |
| 24 | 共生 | 斎藤美香 | 08P |
| 25 | ケア(介護、介助等) | 新田雅子 | 23P |
| 26 | 経済活動 | 大塚宣明 | 20P |
| 27 | 継続性 | 神谷章生 | 21P |
| 28 | 言語学 | 岸本宜久 | 17P |
| 29 | 言語保持(Language maintenance) | 白石英才 | 13P |
| 30 | 高齢者福祉 | 新田雅子 | 23P |
| 31 | 子育て支援 | 大澤真平 | 03P |
| 32 | 子ども | 井上寿枝 | 05P |
| 33 | 子ども・若者支援 | 井上大樹 | 10P |
| 34 | 子ども虐待 | 大澤真平 | 03P |
| 35 | 子ども食堂 | 井上寿枝 | 05P |
| 36 | 子どもの権利 | 大澤真平 | 03P |
| 37 | 子どもの貧困 | 大澤真平 | 03P |
| 38 | コミュニケーション | 矢川美恵子 | 16P |
| 39 | サイエンス・コミュニケーション | 大塚宣明 | 20P |
| 40 | 産学官金連携 | 末富弘 | 14P |
| 41 | ジェンダー | 横山登志子 | 15P |
| 42 | 持続可能性 | 藤永弘 | 24P |
| 43 | 実行機能 | 大宮秀淑 | 07P |
| 44 | 実践と理論 | 横山登志子 | 15P |
| 45 | 児童福祉 | 大澤真平 | 03P |
| 46 | 自閉スペクトラム症 | 山本彩 | 09P |
| 47 | 司法福祉連携 | 山本彩 | 09P |
| 48 | 社会教育 | 井上大樹 | 10P |
| 49 | 社会人基礎力 | 矢川美恵子 | 16P |
| 50 | 社会的責任 | 黄昕 | 27P |
| 51 | 社会的ひきこもり | 山本彩 | 09P |
| 52 | 集客 | 神谷章生 | 21P |
| 53 | 主体性 | 河合直樹 | 11P |
| 54 | 障害 | 斎藤美香 | 08P |
| 55 | 障害者雇用 | 田中敦士 | 18P |
| 56 | 少數言語 | 岸本 宜久 | 17P |
| 57 | 職業リハビリテーション | 田中敦士 | 18P |
| 58 | 女性史 | 新田雅子 | 23P |
| 59 | 書道 | 河合直樹 | 11P |

| | | | |
|-----|-------------------------|-------|-----|
| 60 | ジョブコーチ | 田中敦士 | 18P |
| 61 | 人材育成 | 石田潔 | 04P |
| 62 | 震災復興支援 | 河合直樹 | 11P |
| 63 | 心理学 | 河合直樹 | 11P |
| 64 | 心理教育 | 斎藤美香 | 08P |
| 65 | 心理的バリア | 斎藤美香 | 08P |
| 66 | 数学教育 | 河合直樹 | 11P |
| 67 | 青少年育成 | 井上大樹 | 10P |
| 68 | 精神疾患 | 大宮秀淑 | 07P |
| 69 | セラピードック | ト部洋子 | 06P |
| 70 | 先住民族(Indigenous people) | 白石英才 | 13P |
| 71 | 前頭葉 | 大宮秀淑 | 07P |
| 72 | ソーシャルビジネス | 河西邦人 | 22P |
| 73 | ソーシャルワーク | 石田潔 | 04P |
| 74 | 組織開発 | 河合直樹 | 11P |
| 75 | ソフトウェア工学 | 渡邊慎哉 | 25P |
| 76 | 大学発ベンチャー | 末富弘 | 14P |
| 77 | ダイバーシティ | 斎藤美香 | 08P |
| 78 | ダイバーシティ教育 | 田中敦士 | 18P |
| 79 | 地域(Community) | 神谷章生 | 21P |
| 80 | 新田雅子 | 23P | |
| 81 | 地域活性化 | 臼杵勲 | 19P |
| 82 | 地域経営学 | 藤永弘 | 24P |
| 83 | 地域支援 | 山本彩 | 09P |
| 84 | 地域社会の活性化 | 大塚宣明 | 20P |
| 85 | 地域情報 | 渡邊慎哉 | 25P |
| 86 | 地域食堂 | 井上寿枝 | 05P |
| 87 | 地域創生 | 藤永弘 | 24P |
| 88 | 地域づくり | 井上寿枝 | 05P |
| 89 | チームビルディング | 矢川美恵子 | 16P |
| 90 | 地方創生 | 井上大樹 | 10P |
| 91 | つくる責任つかう責任 | 橋長真紀子 | 26P |
| 92 | デジタルシティ | 渡邊慎哉 | 25P |
| 93 | 東南アジア | 佐野友泰 | 12P |
| 94 | 特別支援教育 | 田中敦士 | 18P |
| 95 | トップマネジメントチーム | 黄昕 | 27P |
| 96 | ニヴフ語(Nivkh) | 白石英才 | 13P |
| 97 | 日本手話 | 岸本 宜久 | 17P |
| 98 | 認知機能 | 大宮秀淑 | 07P |
| 99 | 脳トレ | 大宮秀淑 | 07P |
| 100 | パートナーシップで目標を達成しよう | 橋長真紀子 | 26P |
| 101 | 発達支援 | 山本彩 | 09P |
| 102 | 母子 | 横山登志子 | 15P |
| 103 | 非営利活動 | 石田潔 | 04P |
| 104 | ビジネスマナー | 矢川美恵子 | 16P |
| 105 | 人や国の不平等をなくそう | 橋長真紀子 | 26P |
| 106 | 人や国の不平等をなくそう | 田中敦士 | 18P |
| 107 | ヒューマンサービス | 佐野友泰 | 12P |
| 108 | 描画 | 橋長真紀子 | 26P |
| 109 | 貧困をなくそう | 石田潔 | 04P |
| 110 | フィランソロピー | 臼杵勲 | 19P |
| 111 | 文化遺産 | 大塚宣明 | 20P |
| 112 | 文化財 | 橋長真紀子 | 26P |
| 113 | 平和と公正をすべての人に | 岸本 宜久 | 17P |
| 114 | 北海道方言 | 斎藤美香 | 08P |
| 115 | ボーダレス | 矢川美恵子 | 16P |
| 116 | まちづくり | 石田潔 | 04P |
| 117 | ホスピタリティ | 渡邊慎哉 | 25P |
| 118 | メンタルヘルス | 横山登志子 | 15P |
| 119 | ライヒストリー | 新田雅子 | 23P |

研究者名索引

| | | | |
|--------|--|---|-----|
| 石田 潔 | | SDGsを志向した非営利活動の展開 | 04P |
| 井上 寿枝 | | 地域食堂かば亭(NPO法人つなぐ) | 05P |
| 井上 大樹 | | 地域教育の活性化による基礎教育の質的保障の拡充 | 10P |
| 臼杵 熱 | | 地域文化遺産の保存と活用 | 19P |
| ト部 洋子 | | 学生相談室のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み | 06P |
| 大澤 真平 | | 子どもにやさしい街づくり | 03P |
| 大塚 宜明 | | 「文化財の保存と経済活動の両立」を軸とした地域社会の活性化 | 20P |
| 大宮 秀淑 | | 前頭葉の機能改善から考える人々の健康 | 07P |
| 神谷 章生 | | 地域活性化とアイドルの活用 | 21P |
| 河合 直樹 | | 当事者が主体となる「学び」の場づくり | 11P |
| 河西 邦人 | | ソーシャルビジネスによる地域創生 | 22P |
| 岸本 宜久 | | アイヌ語の記述と記録 | 17P |
| 齊藤 美香 | | 心理学的アプローチによるダイバーシティ社会の構築 | 08P |
| 佐野 友泰 | | 東南アジアの青年における描画表現 | 12P |
| 白石 英才 | | 民族の言語を記録し、次世代に継承する試み | 13P |
| 末富 弘 | | 産学官金連携による地域創生の実現 | 14P |
| 田中 敦士 | | ダイバーシティ・インクルージョン時代の人材養成と国家再生 | 18P |
| 新田 雅子 | | 現代社会におけるエイジングとケアの可能性 | 23P |
| 橋長 真紀子 | | 持続可能な生産と消費 | 26P |
| 黄 昕 | | Team Power Based on the Upper Echelons Theory | 27P |
| 藤永 弘 | | 持続可能な地域創生のための「地域経営学」の学術的理論構築 | 24P |
| 矢川 美恵子 | | 地域企業の顧客ロイヤルティ構築及び発展に向けて | 16P |
| 山本 彩 | | 自閉スペクトラム症と地域支援 | 09P |
| 横山 登志子 | | ジェンダーの視点からソーシャルワークの理論と実践を探求する | 15P |
| 渡邊 慎哉 | | ソフトウェア工学と地域づくり | 25P |



札幌学院大学社会連携センター (新札幌キャンパス)

TEL: 004-8666

札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1

TEL: 011-386-8111(代表)

E-mail: sharen@ims.sgu.ac.jp

ホームページ: https://www.sgu.ac.jp/renkei_c/



札幌学院大学
ホームページ



札幌学院大学
社会貢献シリーズ集



札幌学院大学
SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY